

第1学年2組 国語科学習指導案

平成25年10月23日(水) 第3校時

授業者 松伏町立松伏中学校

教諭 関根 祐介

- 1 単元名・教材名 「図表を使って書けるかな？」
「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」の学習を活かし、記録文を書く学習

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

| 育成すべき国語の能力 【指導事項(書くこと)】 | 学習内容 | 単元・教材名 (実施時期) | 学習活動と関連する他領域等の指導 |
|---|--|---|--|
| ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができる。 【5年及び6年エ】 | ・文章以外の資料の活用 の効果 ・グラフや表を使っての 説明の仕方 ・目的に合った資料選択 の仕方 | 単元「説明のしかたに ついて考えよう」 ・「天気を予想する」 ・「グラフや表を引用 して書こう」 (小5年12月) | 【話すこと・聞くこと】 ○単元「自分の考えをまとめて討 論しよう」 ・グループ討論の進め方 ・情報収集、整理の仕方 ・話し合うために大切な言葉 |
| ・伝えたい事実や事柄につ いて、段落の役割を考 えて文章を書くことが できる。【1年イウ】 | ・段落の効果 ・段落の役割やまとまり を意識した三段落構成 の文章の書き方 | 単元「段落の役割を意 識しながら文章を理 解しよう」 ・「ダイコンは大きな 根」(中1年5月) ・「ちょっと立ち止ま って」(中1年6月) | ○単元「スピーチ名人になろう」 ・自分の考えや思いを、わかりや すく相手に伝える手立て 【読むこと】 ○単元「内容を的確に捉えよう」 ・段落の役割に着目した読み方 |

(2) 生徒の実態と本単元の意図

学校生活や社会生活の中では、自分が調べたり体験したことを正確に、分かりやすく人に伝えなければならないことが多い。理科の実験レポートや社会科の調べ学習、行事等の活動報告などさまざまな場面で求められる。書くということには抵抗の少ない生徒が多いが、何をどのように書けばよいか分からない、または伝えたいことはあっても、文章構成ができない者も多数いる。一方で、これまでの定期テストで、条件を満たした作文を書くことで、徐々に「書ける」という実感を得られた生徒がいることも確かである。

本単元では、特に「書くこと」に重点をおいた指導を行う。大きくは、「シカの『落ち穂拾い』」を図や表の役割や効果について理解しながら読ませ、そこから、図表を用いた「自分観察」の記録文の完成、そして後のレポートを書く単元へと繋げていく。

さて本教材は、宮城県の牡鹿半島沖の島、金華山で、ニホンザルが樹上から落とした食物を、ニホンジカが採食する行動(落ち穂拾い)に興味をもった筆者が、その日時・場所・天気や、シカが採食した植物、シカの頭数などについて観察し、研究した記録をまとめた文章である。本文は、「観察のきっかけ」「観察から分かったこと」「仮説」「仮説の検証」「考察」の5つに分けられ、そのまとまりごとに小見出しが付けられている。これらは、主に「事実」と「考え」に分類できる。ここでいえば、以下の通りとなる。

事実:「観察のきっかけ」「観察から分かったこと」「仮説の検証」

考え:「仮説」「考察」

筆者は、事実を根拠にして、自分の「仮説」「考察」を書いている。内容を理解し、根拠を明確にした記録の文章を作成するためには、小見出しごとに「事実」であるか「考え」であるかを整理することが必要である。それぞれの内容の中には、事実と考えが混在しているものもあるため、文末表現等に注目してそれらを見分け、理解を深めさせたい。また、図表が多用されていることも1つの特徴である。これによって、筆者が仮説と検証を述べる上で、読者の理解の一助となっている。この図表の役割や効果を捉えることも大切な学習内容である。まずは、図表と本文の対応関係を適切につかませ、それらを提示した筆者の意図やねらいを押さえながら、記録の文章の作成に活かしていけるようにしたい。

そのためには、単元の導入において、「自分観察の記録文の作成」を単元の出口であることを伝える。第1時でその実例(夏休みの理科レポート課題)を示し、毎時間の読み取りが、自分で記録の文章を書くために必要な内容であることを実感させる。そうすることで、本文の読み取りの際には、内容理解だけに留まらず、記録文としての構成(「動機」→「事実」→「考え」の流れ)や、文末表現等の工夫を読み取る必然性が期待できると考えた。その上で、実際に自分で集めた材料を分類・整理し、段落の役割を考えて文章構成をさせ、記録文を書かせていく。また、友達との交流を通して、題材のとらえ方・材料の使い方・根拠の明確さについて文章を推敲し、記録文の完成を目指したい。

3 単元の目標

- (1) 記録の文章を読み、その文章の特徴や、本文の内容に興味を持とうとしている。 (関心・意欲・態度)
 (2) 伝えたい事実や事柄について、図表などを用いてわかりやすい文章を書くことができる。 (書くこと)
 (3) 文章と図表などとの関連を考えながら読み、事実と仮説や考察などの関係を捉えることができる。 (読むこと)
 (4) 小見出しに使われている語句に注意して内容を捉えることができる。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準 ※ () の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

| | ア 国語への関心・意欲・態度 | ウ 書く能力 | エ 読む能力 | オ 言語についての知識・理解・技能 |
|---------------------|---|---|---|--|
| 単元の 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> 記録の文章を読み、その特徴や本文の内容を理解しようとしている。 図表を工夫しながら用い、わかりやすい記録の文章を書こうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事柄について図表などを用いてわかりやすく記録の文章を書くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 論理の展開を押さえ、それぞれの内容を文章と図表を対応させて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 小見出しに使われている語句などについて正確に捉えている。 |
| 学習活動における 具体的評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ①記録の文章を読み、その特徴や本文の内容を(正確に)理解しようとしている。 ②図表を工夫しながら用い、(わかりやすい)記録の文章を書こうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ①伝えたい事柄について(効果的な)図表を考えて書いている。 ②表を用いて(わかりやすく)記録の文章を書き表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ①観察・仮説・検証・考察などの論理の展開を押さえながら(正確に)理解している。 ②文章と図表を照らし合わせながら読み、図表の役割や効果について(具体的に)理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ①小見出しの語句の意味について(正確に)理解している。 ②文章で使われている語句、文末表現について(正確に)理解することができる。 |

5 指導と評価の計画 (全6時間)

| 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 評価規準・評価方法 |
|-----|--|---|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいをつかみ、学習計画を確認する。 ○本文を通読し、構成と内容について概要を知る。 ○語句・新出漢字を確認する。 ○単元の出口の活動を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習計画 ○記録の文章の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・小見出し ・図や表 ・物語との比較から特徴理解 ○人の「落ち穂拾い」とシカの「落ち穂拾い」 ○語彙確認 ○「自分観察」記録文のための資料収集の方法 | アの① オの② <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・発言内容や授業後ノートの考察 |
| 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ○小見出しに注目しながら、論理の展開に従って文章の内容を理解する。 ○図表の役割や効果について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○小見出しの意味と役割 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が「観察して分かった」事実の整理 ・「事実」か「考え」かの区別 ○筆者の意図や図表の効果の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・事実の部分に図や表があること ・事実の後に考えが述べられていること ・文章表現以上の事実を表現できること ○P 255 「資料の工夫」の確認 | アの① エの①② オの① <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・発言内容や授業後ノートの考察 |

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| 4 | <p>○到達度テストをし、本文内容理解を確認する。</p> <p>○宿題の「自分観察」記録シートをもとに、テーマに必要な表や図を書く。</p> | <p>○到達度テストの実施</p> <p>○テーマ決定とデータの取捨選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人との比較 ・統計データとの比較 | <p>アの② ウの①② オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子や態度の観察 ・ワークシートの内容の考察 |
| 5 【本時】 | <p>○段落構成を理解する。</p> <p>○事実、考えの書き方を理解する。</p> <p>○記録文を書く。</p> <p>○4人班で読み合い、推敲する。</p> | <p>○段落構成</p> <p>(1)きっかけ（動機）</p> <p>(2)観察からわかったこと（事実）</p> <p>(3)考察（考えたこと・思ったこと）</p> <p>○事実、考えの書き方</p> <p>○交流① 推敲</p> | <p>アの② ウの①② オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子を観察 ・ワークシートの内容の考察 ・発言内容の観察 |
| 6 | <p>○図表を使って書いた文章を読み合う。</p> <p>○相互評価をする。</p> | <p>○交流② 評価</p> <p>○評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表の使い方 ・根拠の明確さ ・文末表現 <p>○自己の振り返り</p> | <p>アの② ウの①② オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組の様子を観察 ・ワークシートの内容の観察 ・発言内容の観察 |

6 本時の学習指導（第5／6時）

（1）目標

- ・図表を工夫しながら用い、わかりやすい記録の文章を書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・伝えたい事柄について図表などを用いてわかりやすく記録の文章を書くことができる。（書くこと）
- ・文末表現に気をつけながら、文章を書くことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

（2）展開

| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 |
|---------------------------------------|--|---|
| 1 本時の目標を知る。 | | ・本時の目標を提示して意欲を高める。 |
| 【学習目標 「自分観察」データを活用して、記録文を書こう。】 | | |
| 2 目的意識・場面意識を確認する。 | ○既習事項の想起。 ○本単元の出口の活動であることを確認。 | ・自分に関わる興味関心の高いテーマを選択するよう促す。 |
| 3 本時の学習の流れを知り、学習の見通しを持つ。 | ○既習事項の整理。 ・記録文のテーマ ・記録文に必要な図や表 ○制作時間の確認。 | 【評価場面1】 〈具体の評価規準〉 ・アの② ・ウの① 〈評価方法〉 ・机間指導による観察 ・学習シートの内容の考察 〈Aの生徒への発展課題〉 |
| 4 段落構成を理解する。 | ○記録文の体裁の確認。 ※三段構成 ①調査のきっかけ（動機） ②観察からわかったこと（事実） ③考察（考えたこと、思ったこと） | ・どのような図表が、より効果的か考えさせる。 〈Cの生徒への支援の手立て〉 ・今後の教師のモデリングを参考にすよう伝える。 |
| 5 教師のモデリングを聞く。 | ○記録文の書き方の具体例提示。 | ・今後の活動の手引きとなるよう、意識を高めさせたい。 |
| 6 事実、考えの書き方を理解する。 | ○記録文の体裁の確認。 ※文末表現 ・観察からわかったこと（事実） ～た。～だ。～である。 ・考察（考えたこと、思ったこと） ～と言えるだろう。 ～と考えられる。 ～と感じている。 ～するつもりである。 ～してみたい。 | ・シカの『落ち穂拾い』本文を想起させて、文末表現の効果を確認させたい。 |
| 7 記録文を書く。 | ○制作。 | 【評価場面2】 〈具体の評価規準〉 ・ウの①② ・オの② 〈評価方法〉 ・机間指導による観察 ・学習シートの内容の考察 〈Aの生徒への発展課題〉 |
| 8 4人班で回し読みをし、意見や助言をもらう。 | ○交流。 ○推敲。 | ・効果的な接続語を用いるよう促す。 〈Cの生徒への支援の手立て〉 ・選択した図表から「わかったこと」、「考えたこと」を考えるよう促す。 |
| 9 記録文を完成させる。 | ○完成。 | |
| 10 本時の学習のまとめと次時の予告をする。 | ○効果的に図表を用いた記録文の例示。 | ・教師による取組の様子の評価。 |

(3) 板書計画

| |
|---|
| <p>シカの「落ち穂拾い」 ーフィールドノートの記録から</p> <p>学習目標 「自分観察」データを活用して記録文を書こう。</p> <p>○記録文（レポート）</p> <p>○段落構成 ①きっかけ（動機） ②観察からわかったこと（事実） ③考察（考えたこと・思ったこと）</p> <p>○文末表現 観察からわかったこと（事実） ・～た ・～だ ・～である</p> <p>考察（考えたこと・思ったこと） ・～と言えるだろう ・～と考えられる ・～と感じている ・～するつもりである ・～してみたい</p> |
|---|

(4) 備考

男子16名 女子16名 計32名